

大同工大キャンパス

No.62

2007.10

DAIDO CAMPUS

DITものづくり祭り／各学科(専攻)ニュース／トコトン先生大活躍／新刊書出版／学生の勇姿
Another Real Face②／きょうだい・親子でDIT⑤／やるじゃんトピックス／理事長就任・退任挨拶
人事／DITスケジュール



写真提供：アルバム委員会



次をつくる人をつくる

大同工業大学

DIT伝統のものづくり教育で、
将来日本のものづくりを担う小・中学生の可能性を引き出す！

DITものづくり



2007夏、ものづくりの楽しさや不思議さを体験してもらおうと、さまざまなものづくりイベントを開催した。

参加した小さなエンジニアたちの笑顔と歓声はまさに夏祭りのようだった。



エコ化学教室 ～環境について学ぶおもしろ実験！～



酒井陽一 教授

6月23日(土)から4週連続土曜日に、小学生(3年生以上)・中学生を対象とした「エコ化学教室 ～環境について学ぶおもしろ実験！～」をDIT滝春キャンパスで開催した。

講師は教養部化学教室の高山努准教授と酒井陽一教授。

最近、TVや新聞のニュースに取り上げられている「燃料電池」、「pH」、「硬い水」と「軟らかい水」、「太陽光のエネルギー」といった「環境や生活に関連した言葉」について、化学実験を通して楽しみながら学んでもらおうという体験講座。

DITが、名古屋市南生涯学習センターと共催で行う地域貢献事業の一環だ。

■第1週(6/23)

ペットボトルと鉛筆で燃料電池をつくろう

石油などの化石燃料を使わないクリーンなエネルギー源として注目されている「燃料電池」を、ペットボトルと鉛筆をはじめとした身近な材料を使って作る実験に、およそ34組70人が挑戦、結果は全組大成功！自分たちでつくった燃料電池の電気で電子オルゴールを見事に鳴らしてみせた。実験会場はオルゴールの音と参加者の拍手や歓声に包まれていた。

この様子は、当日のNHKニュース(昼と夕方)で紹介された。



■第2週(6/30)

植物の汁で酸性・アルカリ性を調べよう

今回の実験はブルーベリーの果汁を使ってpHを調べた。「pH」とは、酸性やアルカリ性を



はかる「物差し」のようなもの。調べる対象は、石鹸水、お酢、水道水、海水、雨水、ジュース、漂白剤などなど。ブルーベリーの果汁にはアントシアニンという物質が含まれていて、液体が中性(普通の状態、pHが7)では紫色だが、液体が酸性(pHが低い)であると赤く、またアルカリ性(pHが高い)であると青くなる性質がある。これを利用して実験を展開した。参加者はブルーベリーの果汁がどんどん違う色に変わっていく様子にびっくり。楽しみながら、「酸性」「アルカリ性」の特徴を学べたようだ。

この様子も、当日NHKニュース(夕方)で紹介された。

■第3週(7/7)

巨大シャボン玉をつくろう



今回の実験では家庭用台所洗剤と洗濯のりとガムシロップなどを使って、人が入れるくらい巨大シャボン玉をつかった。それを作るには、含まれるイオンの少ない軟水を使うことが重要で、硬水である普通の水道水やミネラルウォーターではうまくいかない。雨水や蒸留水などの軟水を用いるとより大きなシャボン玉を作ることができる。この仕組みを利用して「硬い水」「軟らかい水」について楽しく学んだ。

実験の最後に全員のシャボン玉空間体験を記念撮影。「一瞬が一生の思い出になった！」とプレゼントされた写真を見て喜んでいった。



■第4週(7/14)

太陽の光でコピーをとろう

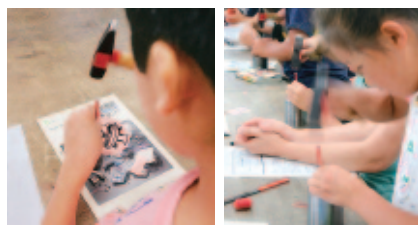
今回の実験は太陽の光で起こる化学反応を利用してコピーを試みるもの。実験では、クエン酸鉄アンモニウムとヘキサシアノ鉄(III)カリウムという薬品を染み込ませた紙に絵を描いたフィルムを乗せ、太陽の光を当てると、光



の当たった部分だけは太陽光のエネルギーで化学反応が起こるため、コピーと同じように他の絵を写し取ることができる仕組みだ。これは太陽の光には物質を変化させるくらいのエネルギーが含まれていることを意味する。



中日新聞社主催 2007夏休みものづくり体験教室 in 大同工業大学



本格派！メタルコースターを作ってみよう！

8月9日(木)・10日(金)の両日、中日新聞社主催、大同工業大学(他5大学)協賛「2007夏休みものづくり体験教室」がDIT滝春キャンパスでにぎやかに開催された。集まった小学高学年生から中学生およそ500人、親御様を含めると、およそ1000人が計9講座からそれぞれが選んだ講座でものづくりにチャレンジした。

DITは「本格派！メタルコースターを作ってみよう！」「本格派！アルミで作るオリジナル置物」「絵が動いてみえるってどういうこと？」の3講座を開講。

「メタルコースター講座」では、ちびっ子職人を発見した。講座時間90分ではとても自分が納得できる作品に完成しなかった彼は、ひとり製作会場に残りハンマーで打つことさらに



本格派／アルミで作るオリジナル置物60分。すばらしい世界でたったひとつのメタルコースターを完成させてみせた。一緒に参加していたお母さんは、わが子の「納得できるまで念入りに仕事をする実直な性質「職人気質」」を思わぬところで発見したとうれしそうだった。

「アルミ講座」では、お母さんたちも見たことがないDITならではの設備にびっくり。子どもたちがオリジナル置物製作中、珍しい環境・体験を記念に残そうとカメラを片手に必死。子どもたちも完成作品に喜んでいましたが、それ以上にわが子の一生ものである「思い出(写真)」をGETできたことにお母さん方は大喜びだった。



絵が動いてみえるってどういうこと？



「絵が動いて見える講座」は、他講座が時間設定されているなか、講座時間フリーでオープン。他講座の空き時間に親子で気軽に立ち寄れる「カフェ」的なスタイルで開講した。手軽に製作できる「フェナキスティスコープ」と冷たいお茶のサービスは猛暑のなか大変喜ばれた。全講座で最も多い、およそ170組の受講生を集めた。

また、DIT講座に参加した受講生にはオリジナル「エコバック」「携帯ストラップ」「ボトルキーパー」をプレゼント。理工系分野への関心を高めてもらうとともに、夏休みの思い出と宿題…!?をこのものづくり体験教室で得られたのではないだろうか。





親子ものづくり教室

7月21日(土)、DIT学生食堂および創造製作センターで、地域連携講座 名古屋市南区役所共催「親子ものづくり教室」を開催した。

9回目の今回は、過去最高となる5コースを開講し、親子61組およそ160人の参加者を集め、大いに盛り上がった。

親子で力を合わせてものづくりに取り組んだこの教室。子供たちにとっては最高の夏休み初日となったに違いない。夏休みの宿題(自由工作)を手伝ってもらうこともできて…。

■銅板をたたいてつくるミニ小物

講師：青山正治教授(工学部機械工学科機械工学専攻)

金属板をハンマー(かなづち)で、たたいたり、曲げたりして金属の性質を学ぶこの教室。金属が伸びたり、縮んだりする性質を利用して「金属板工作」を楽しんだ。



■光るおもちゃを作ってみよう

講師：西村政信講師(工学部電気電子工学科)

光るおもちゃは色々あるが、この際自分で考えて作ってみよう。おもちゃの本体はダンボールや厚紙、それに見取り図をかいた。光る部品は、色々な光を発光しながら点滅する4個のLED(発光ダイオード)を利用した。この教室ではおもちゃの構想と光る部品の作

成を楽しんだ。



■理科実験「電気ブランコ」をつくらう

講師：愛知久史准教授

(情報学部情報学科コンピュータサイエンス専攻)

電磁石は永久磁石と同じ働きをする。永久磁石はいつも磁力が働いているが、電磁石は電線に電気を流した時にだけ、磁力が発生する。「電気ブランコ」は電磁石と永久磁石との組み合わせによって、ブランコをゆらす。



■本格派！アルミでつくるオリジナル置物

講師：青山正治教授(工学部機械工学科機械工学専攻)

私たちの身の回りでは、何気なく使われ、捨てられている物がたくさんある。たとえば、缶ジュース(アルミニウム)やスーパーなどの生鮮食料品の包装に使われているトレー(発砲スチロール)など。この教室では、その材料を使って「铸造」にチャレンジ。本格的な置物を作った。





身近にある木や竹などを加工して自分たちの手で作ったもの。そんな庶民のものづくり文化の原点とも言える手づくりおもちゃを通じて、

子供たちにもものづくりの楽しさを体感してもらった。



■竹でつくるお茶目な「トンボがえる」

講師：渡辺 敏先生（おもちゃ病院「とんかち」代表）

昭和初期の子供たちのおもちゃといえば、



知多で夏休み自由研究 親子燃料電池教室

8月19日(日)、佐布里緑と花のふれあい公園「梅の館」で『親子燃料電池教室』が行われた。参加者は知多市に住む小学5、6年生とその親御様。講師は堀美知郎教授（工学部機械工学科先端機械工学専攻）と松浦豊聡研究員（DIT燃料電池研究センター）が務めた。

午前・午後の部とそれぞれ12組の親子が燃料電池製作に挑戦。午前の部は2組が、また午後の部はなんと10組もの親子が、実際に組み立てた燃料電池キッドの電気で小型プロペラを回すことに成功した。

参加者のひとり「道具を使って自分で組み立てたのが楽しかった」と話し、ものづくりの醍醐味をこの教室で知ることができたようだ。

なお、この教室の様子は、翌日の中日新聞の紙面に大きく紹介された。また後日ケーブルテレビの「知多メディアネットワーク」でも紹介される予定だ。



科学技術を学ぶ「なごや・サイエンス・ひろば」で DIT化学教室＆ロボット研究部が大活躍！



子どもたちが科学技術について学ぶイベント「なごや・サイエンス・ひろば」が8月25日(土)、守山区の研究開発拠点「なごやサイエンスパーク」で開催された。

同パークには研究施設が集積しており、市民に研究内容を知ってもらおうと、市などで行う実行委員会が毎年開いている。パーク内にある研究棟など5ヵ所を公開した。

その5ヵ所の棟の一画、「サイエンス交流プラザ」をDIT化学教室＆ロボット研究部がジャックした。

中会議室では、高山努准教授と酒井陽一教授（教養部 化学教室）が講師を務める「親子化学実験教室～ペットボトルと鉛筆で燃料電池を作ろう～」を実施。事前申し込みで既に定員オーバーの人気ぶり。親子40組およそ100人（2回実施合計）がものづくり実験に参

加した。

また、交流ラウンジと大会議室では、ロボット研究部顧問 西堀賢司教授（工学部ロボティクス学科）と部員12人が、体験・展示コーナーとして「二足歩行ロボット操縦体験」「空中ブランコロボット実演」「リモコン花火（文部科学大臣賞受賞作品）およびサッカーロボットコーナー」を、また手作り工作教室として「手作り昆虫グライダー」「マグネットランド（磁石の工作教室）」「ロボクラフト（ロボット工作教室）」を実施。午前10時から午後4時までの6時間、留まることなく訪れる参加者に、疲れた表情を見せることなく、日ごろの研究の成果とチカラを大学外（地域）に発信できる喜びを噛みしめながら一生懸命対応していた。

なお、この様子は27日の中日新聞に大きく掲載された。

NEWS

工学部 ロボティクス学科

第2回 ロボットバトル in 大同工業大学



8月4日(土)、DITゴビーホールで「第2回 ロボットバトル in 大同工業大学」を開催した。

昨年はDIT工学部ロボティクス学科開設記念として開催したこのイベント、今年はロボットバトルの最高峰「第12回 ROBO-ONE」の出場権をかけた予選大会として開催することになった。

今回は24機がエントリー。東京、大阪、兵庫と、全国の猛者が一堂に集結する大会となった。

はじめに3種目の予選競技(変則3m走／チームde箱押し／ロボビリヤード)を行い、その合計点で決勝トーナメントへの出場権を競

い合った。

DITは、ROBO-ONE 決勝出場経験のある「RL03 Indra」と初挑戦の「モメン」の2機が出場したが奮闘及ばず、予選敗退。

決勝トーナメントは1対1のロボットバトル。手に汗握る攻防戦が繰り広げられた。準決勝では、チーム「くま」VSチーム「くぱぱ」の夫婦対決。その対決を勝ち抜いた「くま」が決勝も勝ち抜き優勝。ROBO-ONEへの切符を手にした。優勝者がうれしさのあまり涙ぐむシーンも見られるほど、情熱的で刺激的なロボットバトルin大同工業大学となった。

工学的知見を育てる 学外授業

ロボティクス学科新入生全員が大同特殊鋼(株)知多工場を見学しました。これは製造現場を実際に見ることで工学への関心を高めることを目的とした「A・A 세미나」科目のイベントです。学生たちは6月11日(月)・18日(月)のグループと6月25日(月)・7月2日(月)のグループの2つに分かれ、案内係の方の説明を受けながら特殊鋼の溶解、製鋼、造塊、分塊、圧延、検査などの工程を見てまわりました。音や熱をとおして伝わる迫力はじゅうぶんで、その中で品質を高める工夫をこらしていく“ものづくり”の真髄を感じることができた見学でした。



1600℃にもなる溶解炉から出てくる特殊鋼を見る

情報学部 情報学科 メディアデザイン専攻

Dラーニング「川戸和英研究室／卒業研究」 地元商店街のポスターデザイン提案発表会

衰退しつつある地元商店街を元気にするポスターデザイン提案を課題とした、川戸研究室の提案発表会が7月24日(火)、笠寺観音商店街および大磯通商店街の振興組合理事長と名古屋市役所市民経済局の方をお招きして開催された。今年で3年目だ。



川戸研究室の学生たちは、商店街を歩き、お店の人、お客さんとのふれあいから感じたことをストレートにポスターデザインで表現した。写真、イラスト、キャッチコピー等、学生のアイデアはまさに十人十色。だからこの発表会は面白く、大いに盛り上がる。

「いいですねー」「活きている」「すばらしい」…今回は今まで以上に出来がいい、我々の予想を超えていると理事長たちは終始興奮気味。発表会の中盤にもかかわらず「今回のポスターは全部採用、製作し、商店街に張ります！」と宣言したほどだ。大型ショッピングセンターにはない、「人と人との繋がりを大切にしている商店街のスタイル」を肌で感じていた、学生たちのプレゼンテーションがうれしかったのだろ



う。また、学生たちも現場の方からの直接的でリアルな意見に大きくなずき、一生懸命吸収しようとしていた。

この提案発表会はお互いのモチベーションや感性を確実に刺激していた。

工学部 建築学科

Dラーニング「建築デザイン実習」
ストリートファニチャーのデザイン提案発表会

ある授業を参観して

「昨日の授業は、良かったですね。」
「本当に、良い授業でした。」
「何気ない日常の生活を、記憶に残る日常とする提案に対する真野先生のコメント、あの場面が最高でした。」

「同感です。今年カンヌ映画祭でグランプリを受賞した『殞(もがり)の森』の監督河瀬直美氏と同じことを言っていました。若い人々が、よくそこまで感じられると感心しました。」

7月下旬の昼休み、授業を参観した2人の教員の会話である。

授業とは、7月26日(木)に開講された真野先生の「建築デザイン実習」のことである。

その真野先生のコメントを引き出したのは平野君の提案である。

「大岡町駅から滝春キャンパスを抜け白水キャンパスに至るまでの間に、『あったら良いな』と思うストリートファニチャーのデザイン提案」に対する平野君の提案は、そこを通過した人の数をセンサーでカウントし、デジタル表現する『通行人数表示版』の提案である。

平野君の提案に対し会場から質問が寄せられた。質問は、「人数を数えて、どのような意味があるのですか」であった。

質問に対し平野君は、「例えば、数字がゼロ目になったら、何となく楽しいじゃないですか。」であった。質問者の反応は、「なるほど」とは言いながら、疑問の余韻を残していた。

しばらくの沈黙の後、姿勢を正し、意を決した様相の真野先生のコメントが始まった。

「この提案が十分機能するか否かは別にして、何気ない行動を、意識化する或いは記憶に残るようにしようとすることを、私は高く評価したい。少なくとも、平野君は、そうしようとしているのだから、私はこの作品を高く評価したい。」であった。

何気なく行っていたことさえも容易にできなくなった認知症患者と子供を亡くした介護福祉士との心の交流を綴ることにより、何気ない日常の重要性や大切さを描いた映画『殞(もがり)の森』と同じテーマを自分の作品に込めようとした学生がいたこと、またそのことに誰よりも早く気がついた先生のいたこと、さらにこのような授業が日常の中で展開されていることに、何よりも感銘を受け、文に残したいと思った。なお、本文の掲載を認めて下さった方々に心より感謝致します。

平成19年夏、建築学科教授 五島

Dラーニング「建築設計 I」
住宅の設計提案発表会

8月3日(金)、DIT製図室で、建築設計 I の発表会を開催した。この授業は、地元住民から課題を募集し、学生たちの無限のアイデアを施主へ提案するという授業。

今回の発表会では、選ばれた20のアイデアを施主に提案した。学生の作品には、パズルのように自分で壁の組み立てができる家や、家の中にいても外を感じられる家など、個性あふれる作品が多く、時間が経つのも忘れ、様々な意見交換が行われた。

提案発表後、施主は「前半10のアイデアは学生の発想力の豊かさに大変面白く見ることができた、また後半10のアイデアは実際に家を建てる際の参考になるものが多かった。これから建築業界へ進む人が多いと思いますが、実際に建築するときのギャップに負けまいようがんばってほしい」と言葉を残した。

笠嶋泰教授(工学部建築学科)は最後に「今までのような型にはまった商品を作る時代はもう終わった。これからの時代は、クリエイティブさを持つ人が提案し、型にはまらない新しいものを作っていく時代だ。それには学生のアイデアのような『勢いがある若い力』を活用していかなければならない」とまとめた。



工学部 都市環境デザイン学科

JABEE認定プログラム修了証授与式

7月22日(日)、DIT交流室で「JABEE認定プログラム修了証授与式」を行った。授与式には昨年度の卒業生およそ30人が出席、澤岡昭学長より修了証が一人ずつ授与された。その後、卒業生代表の藤田広海さんが挨拶で「優秀な技術士になれるようがんばりたい」と今後の抱負を述べた。私立大学「土木および土木関連分野」でのJABEE認定は、

東海地区で2番目。

平成18年度以降のDIT都市環境デザイン学科の卒業生には、JABEE認定修了者として、修習技術者の資格が与えられ、技術士試験の第一次試験が免除される。



トコトン先生!
大活躍!

■ 澤岡昭 学長

三重県工業教育研究大会で講演



8月17日(金)、三重県総合文化センターで、三重県高等学校工業教育委員会の主催する研究大会が行われ、澤岡学長が講演した。

挨拶ではまず始めに、およそ100人の三重県教育委員会を含む工業高校の関係者に、工業大学として本学が共に工業教育に協力して行く事を約束し、講演に入った。

演題は「完成間近な国際宇宙ステーション～飛びたて日本人宇宙飛行士」で、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の技術参与を務める学長にとっては得意の内容。国際宇宙ステーション(ISS)計画の始まりから、スペースシャトル事故に伴うステーション建設計画への影響、最新情報として今宇宙を飛んでいるスペースシャトルの断熱タイル破損状況、さらには学長が私的にも交流のある宇宙飛行士たちの裏話などを交えて楽しく講演が進められた。

質疑応答では、「ISSは日本にとって、なぜ

必要か?」「学長の様に、宇宙飛行士を目指すには何が必要か?」「スペースシャトル等の宇宙事業に関わる事故発生の確率計算はどの

ように行うのか?」等、活発に質問が出され、それぞれに丁寧に回答して、盛況のうち講演を終了した。

技術経営塾(MOT)「賢材塾」の塾長に就任



岐阜県は産業人材の一環として、技術経営塾(MOT)を2005年度より運営している。2007年度に澤岡学長が塾長に就任した。この塾は賢材塾とよばれ、「経営のわかる技術者、技術のわかる経営者」育成を目指した短期集中型の塾である。今年度は8月24日(金)～26日(日)、9月1日(土)～2日(日)、岐阜県土岐市の核融合研究所の施設で、企業の中堅幹部を対象に泊り込みで行われた。

夢のたまご塾で高校生に特別講演

飛騨アカデミーが主催する夢のたまご塾で澤岡学長が特別講演を行った。塾の総裁はノーベル賞受賞者の小柴東大名誉教授であり、毎年高校生50人を対象に行われている。今年は岐阜県飛騨市神岡町で8月9日(木)～12日(日)に行われた。学長は「もう直ぐ完成する国際宇宙ステーション」と題する講演を行った。



■ 井上茂樹 副学長

泰日工業大学(タイ)の開学記念式典に参列



泰日工業大学全景

日本のものづくり技術をタイに伝える「泰日工業大学」の開学記念式典に井上副学長が招かれ、8月2日(木)バンコクの同大学キャンパスで開かれた式典に参列した。

同大学は日本留学経験者らで組織され、長年日本とタイの交流を支えてきた「泰日経

済技術振興教会」が資金を投じてできた大学で、昭和30年代後半から40年代にかけてタイ国から日本に留学し、ものづくり技術が日本の経済発展の原動力であることを肌で感じた人達の熱き思いの結晶として開学に至った大学である。

式典はシリントン王女ご臨席のもと、日本から安倍首相の代理として森喜朗元首相が出席し、タイの政財界と日系企業関係者およそ550人が出席して盛大に執り行われた。

「泰日工業大学」のスポンサー、クリサダ学長は開学準備段階の平成17年4月に本学を訪問されており、学部学科構成やカリキュラムなど本学の教育システムおよび本学の実験実習設備などが先方の参考になり、これを縁に井上副学長が泰日工業大学支援委員会の

委員を務めていた。

「泰日工業大学」は工学部、情報学部、経営学部の3学部からなり、本学と同じ規模の1学年800人を目指しており、今後は学生、教員の交換を始め幅広い学術交流が期待されている。



記念式典で井上茂樹副学長(左)とクリサダ学長

トコトン先生
大活躍!

■ 堀美知郎 教授
(工学部機械工学科先端機械工学専攻)

名古屋ナチ会
定期総会で講演

6月27日(水)、ヒルトン名古屋5階「金扇」で2007年度名古屋ナチ会定期総会が開催された。参加者は会員企業の重鎮たちおよそ100人。燃料電池研究開発の権威である堀教授が「燃料電池の現状について」と題して講演した。



■ 井上孝司 教授 (工学部機械工学科機械工学専攻)

東海テレビ『ぴーかんテレビ』に出演



東海テレビ『ぴーかんテレビ』の人気コーナー「主婦力判定テスト」第6弾に井上孝司教授が実験クイズの解説者として出演。家事の裏技から料理の基本、冠婚葬祭のマナーまで、主婦なら知ってて当然、知らなきゃ恥! そんな常識をクイズ形式で紹介するこのコーナー。今回のクイズは「汚れたペットボトルや麦茶ポットの底をキレイにするために使う物は?/A.卵の殻 B.小麦粉 C.ピー玉」。

ロケ現場のぴーかんハウスで、リハースル・打ち合わせもないまま、本番という状況にもかかわらず、見事一発OK。驚くほどきれいになったペットボトルに井上教授・薮リポーター・スタッフ全員大満足。にぎやかで楽しくて早い! 実験ロケとなった。

日刊工業新聞が取材「芽はぐくむ研究室」

8月6日(月)の日刊工業新聞、「芽はぐくむ研究室」欄に、井上教授の研究が紹介された。「ものづくりこそが日本が生きる道。それを支

える機械加工技術は不可欠だ」と強調する井上教授。セラミックスや複合材料など難切削材の機械加工技術をテーマに研究している。

■ 坂倉守昭 准教授
(工学部ロボティクス学科)

知多市・DIT連携講座
「ロボットとあそぼう」

7月8日(日)、知多市ふれあいプラザで知多市中央公民館主催による大学連携講座「ロボットとあそぼう」が開催された。受講者は29名の小学生。定員を越える申し込みがあり、あのエンターテインメントロボット アイボと触れ合いながら、楽しくロボットを学んだ。プロジェクターから映し出されるロボットの絵を見て「このロボットの名前知ってる?」の問いかけに「ドラえもん!」キテレツ大百科の「コロ助〜!」「鉄腕アトム〜!」「ターミネーター」と次々に答えが叫ばれ、また「操作型ロボットと自律型ロボットの違い」など、少し難しい話にも目を輝かせて聞き入っていた。

アイボをパソコンで操作して歩かせたり、自立型に切り替えたアイボに骨を咥えさせたり、ダンスを躍らせたりして、受講生たちはたっぷり2時間の講座を楽しんでいた。



2007年(平成19年)8月6日 月曜日 日刊コ

芽はぐくむ研究室

大同工業大学・井上孝司教授

**改良の積み重ねで変革
難切削材効率的に機械加工**

先端技術

「チリチリと日本が生きて、それを支える機械加工技術は不可欠だ」と井上教授。井上教授は、難切削材の機械加工技術の研究に専念している。難切削材とは、加工が難しい材料のことで、主にセラミックスや複合材料など。これらは、従来の金属材料とは異なり、硬く、脆く、加工が難しい。井上教授は、これらの材料を効率的に加工するための技術を開発している。その成果は、日刊工業新聞の「芽はぐくむ研究室」欄で紹介された。

井上教授は、難切削材の機械加工技術の研究に専念している。その成果は、日刊工業新聞の「芽はぐくむ研究室」欄で紹介された。

トコトン先生!
大活躍!

■ 鈴木桂輔 准教授 (工学部機械工学科機械工学専攻)

安全運転教育講習会で講演



碧南市文化会館

昨年は愛知県警察学校(春日井市)で交通警察官46人に、また中区役所では(社)愛知県安全運転管理協議会が主催する安全運転管理者等講習会でおよそ400人に講演した。

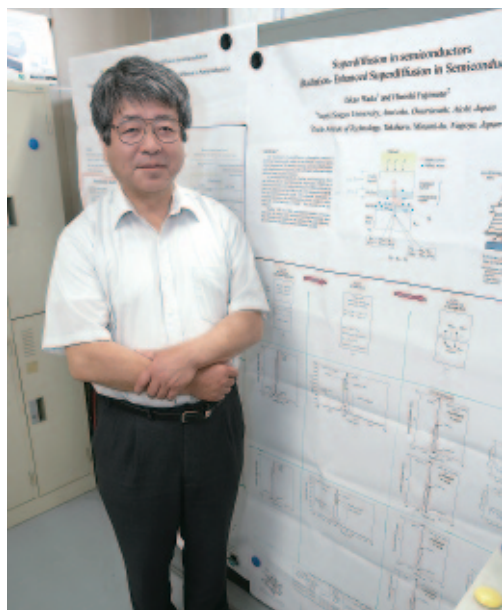
今年は6月7日(木)に豊川文化会館、7月6日(金)は碧南市文化会館、また7月19日(木)はDIT交流室で学生指導担当の大学職員およそ40人に、さらには7月31日(火)と8月7日(火)

の2日間で、三菱自動車岡崎工場に勤務する従業員およそ1,600人に、運転中の携帯電話使用についての実験・研究結果や、事故そのものを発生させない仕組みを工学的な見解のみならず心理学的見解を織り交ぜながら、わかりやすく説明した。



三菱自動車工業

■ 藤本博 准教授 (情報学部情報学科コンピュータサイエンス専攻)

外国雑誌論文の情報を提供する
『CSA ILLUMINAt』に論文が登録される

CSA社〈アメリカ本社〉より、『CSA ILLUMINAt』の「固体および超伝導物理」のデータベースに、DIT和田隆夫前教授と藤本准教授の共同研究による下記2編の論文の抄録を登録したとの連絡があった。

タイトル:

1. Superdiffusion of impurity atoms in damage-free regions of semiconductors
2. Electron beam doping of impurity atoms into semiconductors by superdiffusion

雑誌名:

Physica Status Solidi-Conferences
『CSA ILLUMINAt』は、CSA社が提供する外国雑誌論文の全文・抄録やその他有用な情報を提供するオンラインデータベースのこと。全世界の4,000以上の大学や研究機関がこのデータベースを利用している。昨年は2千万件以上の利用契約を結び、また2億3千万件以上の質問が寄せられた。

■ 松岡陽子 講師 (教養部教職教室)

名古屋市・DIT連携講座
「絆の心理学～親子・夫婦の愛着関係～」

名古屋市女性会館で7月7日(土)より3週連続土曜日に開講されたこの講座は、心理学者で「愛着」を研究する松岡講師が昨年に引き続き講師を務めた。参加者は57人。「絆の心理学～親子・夫婦の愛着関係～」と題して、「愛着の形成と発達 - 子から親へ - (7/7)」「愛着の連続性と不連続性 - 世代間伝達 - (7/14)」「夫婦間の愛着 - 成人同士 - (7/21)」のシリーズ構成で講座を展開。「心理学で言う“愛着”とは、親密な関係の中で形成される絆のこと」。その“愛着”がもたらす様々な可能性について解説した。



■ 堀尾吉巳 教授 (工学部電気電子工学科)

表面科学基礎講座で講演



安田講堂前で

6月27日(水)～29日(金)の3日間にわたり、表面科学基礎講座が東京大学理学部1号館小柴ホールで開催された。本講座は日本表面科学会主催、日本物理学会や応用物理学会など24学会が協賛する表面・界面の基礎と応用を学ぶものである。特にナノテク分野の分析技術はめざましく進歩しており、学術的研究はもとより、産業界における研究開発や品質評価などに盛んに利用されている。本講座ではおよそ100人の表面・界面分析の研究者、技術者を対象とし、各分野の専門家が解説する内容になっている。私は28日(木)の10:00か

ら11:20まで「電子線回折法 (LEED/RHEED)」についての講演を依頼され、披露した。当日の16:20から始まった総合討論でも多数の質問を受け、全てに詳細な回答を述べ、大いに盛り上がった。おかげで終了予定時刻を30分近くも越えてしまった。

小柴ホールでの講演を終えて…

ノーベル物理学賞を受賞した小柴東大名誉教授を記念して3年ほど前に建てられた小柴ホールで講演できることはこの上なく名誉なこと。シックで落ち着いた会場の雰囲気は学術会議の雰囲気とぴったりだった。時々森林浴風の香りが湧き出ているようで、細かい配慮にも感心した。人口過密の東京にあっても、東大の中はなぜか閑散とし、森や芝生も多く、そして赤門や安田講堂など昭和初期以前の建造物が多く残っているため、キャンパス内は東京を全く感じさせない古きよき時代の大学空間だった。

また、学内にはヨーロッパ風の喫茶店や24時間営業のコンビニもあったが、違和感なく存

在していた。時計台の中にある生協の食堂で昼食をとったが、豊富なメニューで安くてボリュームがある点は本当に貧乏学生を大切にしているように思えた。このような存在感ある大学は、未来永劫にわたり学問のロマンを我々に掻き立ててくれるだろう。時代に左右されずに真理を探究する姿は、今の多くの大学に欠けている何かを主張しているようにも思えた。

当日の東京は30度を越える高温多湿の典型的梅雨気候であったが、キャンパス内を散策した私にはその不快感よりもむしろ明治のさわやかな空気に包まれていた。このように感じたのは私だけだろうか。



小柴ホールでの講演風景

新刊書出版

■ 山内五郎 教授

(情報学部情報学科メディアデザイン専攻)

『ぬれと(超)撥水、(超)親水技術、そのコントロール』

—実用化および表面処理・試験評価・商品展開—



発行所：(株)技術情報協会
発行日：2007年7月31日
定価：89,250円(税込)

水没、水濡れで故障してしまう携帯電話。

しかし超撥水材料を使うことで、深さ1mの水中に30分浸した後でもマイクロホンとしての機能は働いている! という実験結果が…

「ぬれと(超)撥水、(超)親水技術、そのコントロール」の第4章 第1節 [13] 超撥水材料実用化の留意点、[14] 携帯電話用撥水エレクトレットマイクロホンを情報学部 山内五郎教授が共同執筆。

■ 茂吉雅典 講師

(情報学部情報学科メディアデザイン専攻)



「憲法・戦争を
考える絵本」として
朝日新聞(9/5)が
紹介

『椿の詩』

茂吉雅典・うすいしゅん(絵)



発行所：(株)けやき書房
発行日：2007年8月29日
定価：1,470円(税込)

「あやまちは、くり返しません。戦争を放棄します」と日本が世界に誓ってからちょうど60年。

多くの犠牲者の上に今の平和や憲法があることをいつまでも忘れないでほしい…という思いを、明治、大正、昭和、平成と生きてきた女性「ツル子」と「椿の木」を通して描いている。

本書は、今の子どもたちにも戦争の残酷さや平和の大切さをわかりやすく伝えようと、画家のうすいしゅんさんと共作の絵本となっている。



近藤弘憲さん(大学院工学研究科修士課程機械工学専攻1年)

ベンチャーエキスポ2007 in 名古屋に出展

7月5日(木)、名古屋国際センターで「ベンチャーエキスポ2007 in 名古屋」が開催された。これは、中部エリアにおいて、中小・ベンチャー企業に対して支援活動を行う民間ベンチャー支援組織が連携・協力し、ベンチャー起業家、企業内ベンチャー、大学発ベンチャー関係者とこれらを取り巻く産・学・官の関係者との交流を深め、個々の活動の融合と発展を狙うもの。

このイベントに、キャンパスベンチャーグランプリ文部科学大臣賞受賞作品で、現在㈱ユニメックと共同開発している近藤さんの室内家電機器制御装置「リモコン花火」を出展。



多くの人が実際にマイクに向かって呼びかけ、電気をつけたり、DVDを動かしたりしていた。

この様子は当日夜のNHKニュースで紹介された。

尾関竜二さん(大学院工学研究科修士課程機械工学専攻2年)

13th International Conference on Experimental Mechanics(Greece)で論文発表



7月1日(日)～6日(金)、ギリシャで開催された「第13回国際実験力学学会(ICEM13)」で杉浦研究室の院生尾関さんが論文『AN APPLICATION OF IMAGE-PROCESSING TO STRESS MEASUREMENT BY COPPER PLATING FOIL (銅めっき箔ひずみ計による応力測定への画像処理の適用)』を発表した。

ちょうど1年前、杉浦正勝教授(工学部機械工学科先端機械工学専攻)からICEM13へのチャレンジ話を持ちかけられた。当時まだ海外経験がなかった尾関さん「海外に行ってみよう!」という軽い気持ちからチャレンジを決めたとか…。英語が得意ではなかった彼は当然苦労することに…およそ1年間の準備期間を「しんどかった」と振り返る。

そしてあっという間に発表当日、極度の緊張から会場に来ていた参加者を見ることができなかった。後で聞くと50人ほど集まっていた

ようだ。質疑応答は司会を務めていた杉浦教授に助けていただき、無事20分間、英語でのプレゼンテーションを終えることができた。杉浦教授や会場で知り合った先生方から「国際学会初挑戦であそこまでできれば大したものだ!」「Good Job!」と声をかけられホッとした。しかし本当のプレゼンはその後からだ。休憩スペースでくつろいでいると、プレゼンを聞いていた人が次から次へと話しかけてくる、もちろん英語で。翌日もまたその翌日も…。これが彼を環境に慣れさせてくれたようで、すぐにコミュニケーションを取ることができるようになり「すごく楽しかった!」と話す彼の表情が緩む。ギリシャでの初日「日本語が通じない、英語はしゃべれない、どうしよう…」と不安に思っていた自分がうそのように、2日目からは「やればできるのだ!」と自信がついた。

外資系企業に就職が内定している尾関さん。帰国後、英会話は単語力とコミュニケーションでイけると新聞・文庫本・映画など、積極的に英文に触れ、常に辞書を携帯し、わからない単語はすぐ調べるスタイルに取り組んでいる。「実際に必要でない場面でもいくらか勉強してもダメ。知りたいという欲求があつてこそ、身になる」とは彼の言葉。尾関さんにとってギリシャの経験から得た大きな成果のひとつは、英語の必要性を実体験から再確認できたことであろう。



ロボット研究部

高校生のためのハイテクイベント「大学・高専実験出前工房(最先端ロボット大集合)」に出展

8月3日(金)、高校生に「ものづくり」に関する工学・技術がいかにおもしろく夢があるかを、大学の先端研究の体験・見学を通じて知ってもらおうと開催された、社団法人日本機械学会東海支部主催のイベントにDITロボット研究部が協力参加した。

4大学1高専がブースを連ねたこのイベント。他校は1種類のロボット出展だったのに対して、DITは「リモコン花火」「サッカーロボット」「空中ブランコロボット」の3種類を出展。終始DITのブースは大盛況だった。また、主催関係者から「大同の学生は説明が上手!」との評価も得た。これはロボ研学生がさまざまなイベントで経験を積んできた成果と言えよう。

第39回リーダースキャンプ



8月27日(月)～29日(水)の3日間、長野県黒部観光ホテルに各クラブの代表者を集め開催。ここ近年の議題は「部の活性化」だったが、今年は「各クラブの援助金」について。全体を6グループに班分けしたことで、他のクラブ事情についても深くまで知ることができ、様々な視点から考えられた意見を多く引き出すことができた。その後の全体討論会は、時間内に終わることができないほど熱の入ったものになった。

また、スポーツ交流ではドッジビーを行った。これはドッジボールと違い、やわらかいフリスビーを使うため、男女・運動部・文化部問わず楽しむことができ、クラブ間の交流を深めた。

クラブ委員会 委員長 金森由浩(剣道部)



Another Real Face

もうひとつの素顔

2

中山陽平君(工学部都市環境デザイン学科1年)
メ〜テレ UP!
特集「伝統の手筒花火にかける男達」に出演



三河地方に450年もの間、伝えられてきたという手筒花火。長さ90cm、重さ10kg、噴出する炎の温度は1200度に達し、高さ40mの炎が夜空を焦がす。

源頼朝に建立されたと伝えられる吉田神社は、手筒花火の発祥の地。ここで行われる豊橋祇園祭は、毎年、氏子たちが手筒花火を奉納してきた由緒ある祭り。この伝統ある祭りに

今年初めて参加し、手筒花火に挑戦する若者が中山君だ。

この祭りは以前「無病息災」「五穀豊穡」の意味合いがあったが現在では「大人への門出」「度胸試し」という意味も含まれているという。

「手筒は子どものころからの憧れ。父の後を追いついに手筒を上げられる年になった」と話す彼。

7月20日(金)、いよいよ祭り本番。上げる直前「伝統の重圧を感じます」と神社の氏子たちが450年もの間、守り続けてきた伝統がプレッシャーとなって彼に押し掛かる。境内は氏子の勇壮な姿を見ようと、多くの客で賑わいをみせていた。高まる緊張。「もう、やるしかない」。

いよいよ出番、父が火をつける。放射熱と降りかかる火の粉をじっと30秒間耐えた。初めてとは思えないほど、堂々と手筒を上げて

みせた。
月曜日～金曜日の夕方6:17からメ〜テレ放送の報道番組「UP!」の特集に今回初めて「手筒花火の氏子」に挑戦する若者として、中山君が密着取材を受けた。7月24日(火)、荒れ狂う火柱と闘う彼の姿が13分間放送された。

「よかった。構え方から上げ方まで、初心者ではないようだった」と父が話す。

「父と兄と一緒に手筒花火を上げられたことが記念になりました」と話す彼の黒く焦げた顔は輝いていた。

父と子の絆が印象に残った特集となった。



DITを選んだ理由は?

姉→実家からすごく近かったから。

弟→姉が通っていて両親の強いすすめもあったからです。また、家が土木関係の仕事なので仕事の手伝いができればと。

DIT、弟に進めた?

姉→学科はだんぜん都市環境を勧めました。

弟がDITに決まり、先ず考えたことは?

姉→あまり派手なことをすると筒抜けだなと思いました。しかし、あまりにも似ていないため、弟だと誰も信用してくれません。(笑)

DITに決まり、姉の反応は?

弟→いろいろ大学で面倒を見てもらっているところを考えると喜んでるようにも感じます。

きょうだいでDIT、得したことは?

姉→弟のぼうがしっかりしているので、掲示板などしっかりチェックしてくれてくれます。

弟→情報の共有ですね。教職関係だけでなく履修関係、授業の先生の情報までも。

好きな学食メニューは?

姉→駒の屋さんのおにぎりが好物です。あんなにおいしいのに100円!

弟→ゴビーホールの唐揚げ! 特製ソースが非常においしいです。

DITのお気に入りスポットは?

姉→白水キャンパス4号館前のベンチ。

みんなの顔が見られるし、みんな集まってくる。弟→吹奏楽団の練習場ですね! わからない事を教えてくれる先輩が、僕の好奇心を満たしてくれます。何時間いても飽きません!

DITのココがいい!

姉→先生たちがみんなやさしくて面白い。わからないことは勉強のこと以外でも、いやな顔ひとつせずになんでも相談に乗ってくれる。

弟→DITの担任制が素晴らしい。まず最小限単位でクラスがあると、どんなに人付き合いが苦手な人でも友達ができます。大学生活での問題も相談でき、発想の幅や解決策も広がっていきます。

〇〇先生感謝してます!

姉→斉田先生にはとても感謝しています。



姉/山下理代さん
工学部都市環境デザイン学科3年

物理学の勉強全般を教えていただきました。何度もの質問に納得するまで根気よく説明してくれました。とても尊敬しています。

弟→担任の棚橋先生や部活顧問の片岡先生を人間的に尊敬しています! しかし、感謝しているのは環境生態学の長谷川先生です。入学当初、大学における学習の楽しさ、新しい視野を持つことを習いました。

将来の夢は?

姉→研究者や技術者など常に新しいもの、未知の世界に挑戦していく職業につきたいです。

弟→これから見つけていきます!!

最後に一言、ご自由に...

姉→夜空の星を見上げてみてください。その光は何千年も何億年も前に発せられた光なのです。いま悩んでいること、人間のちっぽけさがひしひしと実感できると思います。

行き詰まったときの私のとおきおきの解決法です。

弟→これからDITでたくさんの思い出を作りたいと思います!



弟/山下優人君
工学部都市環境デザイン学科1年



DIT オープンキャンパス 2007夏

7月22日(日)、滝春キャンパスで、オープンキャンパスを開催した。快晴の空の下、高校生・親御様を中心におよそ750人の方々にDITを体感していただいた。

午前中は、全参加者に向けて澤岡昭学長から挨拶。その後は、各学科・専攻に別れミニ講義・模擬実験・講座を実施。



お昼は、食堂を無料開放し学食体験。緊張していた人もここで少しの間 Break Time…。

午後もし引き続き、各学科・専攻で模擬実験・講座を行い、DITらしさをアピールする「まっすぐ、まじめなオープンキャンパス」を展開することができた。



2008年度DIT入学試験スタート AO入学試験

8月21日(火)と22日(水)の2日間、DIT伝統の実学を重んじる教育を通して、志願者の能力と可能性を見極めるAO入試／体験授業を行った。



マスコミも注目する DIT !

- 学生への面倒見がいいと感じる大学
→ **全国5位** (7/23 朝日新聞)
- 07就職に「超」強い200大学ランキング
→ **全国9位** (読売ウィークリー 8月号)

佐藤義久研究室 (工学部電気電子工学科)

「みなびい感謝デー」に 電気自動車を出展

8月8日(水)、名古屋市の市章「まるはち」にちなんで行われるイベント「まるはちの日事業 みなびい感謝デー」が南生涯学習センターで開催された。この地域イベントに佐藤研究室が協力参加。卒業研究の一環として取り組んでいる電気自動車を出展した。

たくさん子どもたちが電気自動車に興味津々。遠くから眺めたり、実際に乗ってみたいと、「ワイワイガヤガヤ」DITブースはにぎやかだった。午前中は…。午後になるとさすがの子どもたちも猛暑には勝てなかったのか、パッタリ姿が見えなくなりました。



橋口宏衛研究室 (工学部ロボティクス学科)

ソーラーボート大会への挑戦 !

8月25日(土)・26日(日)の2日間、琵琶湖で「第11回びわ湖クルーズ・ソーラーボート大会」が開催された。この大会に橋口講師からの呼びかけで集まった有志のメンバー10人が挑戦した。

エントリーした先端技術部門は、竹生島周辺およそ20kmを、太陽電池をエネルギー源にした無人ボートで競争し、ポイントを争うもので、そのレースボート規定(ボートは無人の自律した固体であること／搭載されたセンサの情報のみを用いて搭載のコンピュータの指令のみに基づき自律航行すること／GPSまたはこれに準ずる測位センサを搭載すること／他)の技術の高度さに参加を断念するチームが多い部門だ。今回はディフェンディングチャンピオンの東京大学を始めとした6大学がエントリー、ポイントを争った。

ソーラーボートはDITと(株)ユニメックで共同製作し2艇エントリー。実は製作環境がなかなか整わず、3週間の突貫製作で完成させたとか…。

レース当日、ボディーの塗装も乾かないうちにスタート時間となった。残念ながら、GPSの



プログラムの不具合で自律航行させることができず、ラジオコントロールでの出場(参考記録)となった。その結果、ポイントを獲得できず好成績を残すことはできなかった。しかし、他のボートすべてがスクリュー船であったのに対し、「大同工大ユニメック産学連携チーム」のボートはウォータージェット船。しかも製作期間3週間で2艇エントリー。これは他チームから高い評価を受け、注目を浴びた。今回成績を残すことはできなかったが、確実に成果を残した大会であったといえる。

来年は研究室の垣根を取っ払い、広く学生を募り、プロジェクトチームで臨みたいと橋口講師は言う。今年参加した学生も「打倒東大!」を掲げ、新たなボートの設計に取り組まれたとのことだ。



第29回アメリカ短期留学

今年度もアメリカ短期留学が学生18名、引率者2名の計20名で、8月6日(月)から9月2日(日)までの28日間実施された。初めての海外という参加者も多い中、不安と緊張そして期待を持って第29回アメリカ短期留学は始まった。

アメリカでの生活は初日こそ乗継関係でトラブルがあったが、それ以外は、順調に経過していった。学生は、日本語だけの生活から英語中心の生活への変化や時差の関係から、始めの内は疲れも見せていたが、すぐに現地の生活にも対応し、授業にも積極的に参加した。単語でしか受け答えできなかった学生た

ちも、日がたつにつれ文章で話すことができるようになっていった。授業以外にも、オレゴン大学の学生や他の留学生とも交流を深め、学生たちの多くがメールアドレスを交換し、帰国した今も連絡をとっているようだ。また、共同生活をする中で、自然と協調性や責任感が生まれていったと思う。正直、始めは頼りなかった学生たちも、とても頼りがいのある、自信をもった様子に変わっていき、修了式には現地のスタッフからも、今回の学生は本当に素晴らしいとお褒めの言葉をいただくことができた。実際、28日間を通して、彼らの行動や積極性は素晴らしかったと思う。

引率者／都築 基(学生室)



約1ヶ月間という短い期間だったが、学生たちは多くのことを学び、体験することができたと思うし、本当に実り多い留学であったと思う。また、今回の参加学生は、このアメリカ短期留学で得たことを今後の生活だけでなく、将来に向けて間違いなく生かすことができると信じている。



大東憲二研究室 (工学部都市環境デザイン学科)

体験！DIT液状化現象実験工房



地域の皆さんに伊勢湾・三河湾の環境改善や災害対策などを考えていただこうと、伊勢湾水理環境実験センターが一般公開された。このイベントは平成13年以来、毎年1・2回のペースで続いている。今年は7月27日(金)に実施され、大東研究室の液状化現象実験装

置が来場者の注目を浴びていた。液状化とは、地震の揺れで地面がまるで液体のようになることを言う。新潟県中越沖地震(平成19年7月)も液状化で建物が沈む被害を受けている。また、液状化マップもあり、自分たちが住んでいる地域が液状化するかどうか、真剣に質問するお母さんの姿がよく見受けられた。

このブースを担当していた国土交通省中部地方整備局名古屋港湾空港技術調査事務所の職員 野上周嗣さん、実はDIT工学部建設工学科土木工学専攻の卒業生。このイベントの2日前にマンネリ化しつつあった液状化実験機材を何とかしたいと思い立て、大東教授に相談。「快く協力いただいたこと、大変に感謝しています」と話していた。

第3回堀川エコロボットコンテストに参加

8月26日(日)、「堀川を清流に」を合言葉に、「堀川エコロボットコンテスト2007」が開催された。七里の渡しを会場に幼稚園から大学・企業と幅広い年齢層の方々が参加した。

DITからは大東研究室の院生、学部1・4年生で構成されたチーム「大同工大 CEED-DAITO」が「ヘドロ浄化ロボットウォーターエコ2号」を完成させ、コンテストに参戦した。

「ウォーターエコ2号」は、吸い上げたヘドロ水に凝集剤を添加してヘドロときれいな水に分離。更にきれいになった水に空気を送り込み、水中の酸素濃度(溶存酸素)を環境基準値まで上げてから堀川に戻すロボットだ。実演では、堀川の真っ黒なヘドロ水をきれいな水にして堀川へ戻してみせた。

審査結果は、「ものづくり」と「技術」をたたえる一般賞の「技術賞」と、特別賞の「瀬戸信用金庫理事長賞」に輝いた。



理事長就任・退任挨拶

奥村博司副理事長、 新理事長に就任。



卒業パーティで
卒業生にエールを送る
奥村博司 理事長

みなさん、お元気ですか。友人はいますか。大学生活は充実していますか。私は「本学の特色は人を育て、才能を伸ばす大学」だと思っています。

そして、これを更にみがき、「さんしょは小粒でピリリと辛い」と言

われるように、中部地区でさらには全国でキラリと光る大学にしたいと考えています。

卒業生全員が社会で必要とされる人になっていきいきと活躍されることを願っています。

そのためには教育環境を整備することに加え、教員一人ひとりの教育力を高める工夫と教育システム改善へのたゆまぬ努力が必要です。

一方、学生諸君は学問を通じて考える力を養うと共に、人間力を高めて欲しいと思っています。

私は学生・教職員みなさんの前向きな活動を応援しつづけます。

田中卓理事長、 任期満了により退任。

私は、入学式や卒業式の理事長祝辞の場をかり、新入生には学生生活最後の4年間の今こそ技術を習得するチャンスであること、また、卒業生にはそれぞれの初めて得た職を軽々しく辞めないこと、そして大同工業大学こそ人生の母校（母港）と頼りにしてほしいとの旨をお話してまいりました。

こうした学生の目的が果たせるよう、また、ご父母のご子息に託された期待がより確かなものになるよう、学長・教職員と共に学校経営に邁進してきた楽しく充実した年月でした。

この間、ご父母、学生、同窓生はじめ関係の



入学式で新入生に祝辞を送る
田中卓 前理事長

皆様大変お世話になり、御礼申し上げます。

有難うございました。皆様のご健勝を心から祈念いたします。

人 事

■理事長

[退任]

田中 卓（大同学園 理事長）（H19. 8. 29）

[就任]

奥村 博司（大同学園 理事長）（H19. 8. 30）

●退職

【本部】

〈事務職員〉（H19. 9. 7）

鬼頭 哲哉（経営企画本部 企画室）

【大学】

〈嘱託職員〉（H19. 8. 31）

横井 健一（工学部 ロボティクス学科）

●採用

【大学】

〈教育職員〉（H19. 10. 1）

三原 昌平（情報学部 情報デザイン学科準備学科長付 教授）

井藤 隆志（情報学部 情報デザイン学科準備学科長付 准教授）

山田 幸司（工学部 建築学科 准教授）

●異動

【大学】

〈事務職員〉（H19. 10. 1）

磯川 憲二（大学事務部 研究支援・産学連携共同研究センター事務室長）

伊藤 幸生（大学事務部 研究支援・産学連携共同研究センター事務室主席部員）

鬼頭哲哉さんを偲ぶ



本学園 経営企画本部
企画室 前室員

鬼頭 哲哉
（享年39歳）

着任 1990年4月1日
逝去 2007年9月9日
（肺線癌）

9月9日（日）長期療養中のところ、ご自宅にて逝去されました。あまりにも早い別れに、学園職員一同、深い悲しみを感じています。

鬼頭さんは、1990年に本学・学生課（現学

生室）に着任してから、庶務室を経て、学園の経営企画本部・企画室に勤務しました。

鬼頭さんと言えば、愛妻家、こよなく名鉄電車愛する鉄道模型マニア、懸命に大同工業大学を愛した人でした。

大学の事務職員という仕事の中で「今あるものをより良くする。」「新しいものを創作する。」そういった意欲を常に持ち、より魅力的な大同工業大学を創るための推進力となって多大なる貢献をしてきた人のひとりです。

校内新聞『APPLES』は、彼の提案で制作・発行されたものです。澤岡学長のホームページ

にも彼の制作によるものです。持ち前の文章作成能力とセンスで本学の新しい情報提供サービスを充実させた功労者です。

個人の趣味としては、鉄道模型の制作者として、雑誌や新聞で紹介されるなど有名人でした。もともと「ものづくり」の好きな彼は、奥さんご長男を連れて、よく本学の「ものづくり」公開講座にも参加していました。

家族を愛し、鉄道を愛し、大同工業大学を愛した鬼頭さんのご冥福をお祈りします。

エクステンションセンター事務室長 兼 広報室長
片岡 智幸

DIT スケジュール



11月

- 3(土) 推薦入試 文化の日
- 4(日) 学内レガッタ大会
- 6(火) 就職SPI試験[2. 3 年次生]（～11/8）
- 10(土) 指定高校推薦
- 14(水) 後期学生代表者会議
- 16(金) 第8回就職ガイダンス（11/19・20・22・26）
- 23(金) 勤労感謝の日
- 29(木) 女子学生就職ガイダンス

12月

- 8(土) クラブハウス棟大掃除
- 9(日) 入試対策セミナー
- 10(月) 第9回就職ガイダンス（～12/13）
- 17(月) 就職SPI低学年フォローガイダンス（～12/20）
- 20(木) 『DAIDO CAMPUS No.63』発行日
- 23(日) 天皇誕生日
- 24(月) 授業日（振替休日）
- 25(火) クラブ推薦（Ⅱ期）、特別奨学生・M方式入試補講日（～12/27）
- 28(金) 冬季休業開始（～1/5）

編集後記



9月8・9日の2日間、10年目を迎えたDITラグビー部の夏合宿を実施した。うれしかったことは、それに参加してくれたOBが11人。試合や平日の練習にも常に顔を出してくれる。また私の大学時代の同志もコーチとして、10年間常に私の隣にいてくれる。私と仲間たちの和を繋ぎ続けてくれるラグビー（部活動）に感謝したい。